

3 環境情報の収集・発信

センターでは、県民の環境意識の向上や環境保全活動を支援するため、環境学習情報のほか、試験研究情報、国際貢献情報など様々な情報をホームページで提供している。また、平成26年7月からフェイスブック、令和2年5月からYouTube公式チャンネル「CESSチャンネル」、令和2年11月からInstagramを活用して、イベントや生態園の四季、センターの活動などの情報を発信している。

これに加え、新聞による環境情報の発信や、センターの活動を広く知ってもらうためにニュースレターを発行している。

HPアドレス <http://www.pref.saitama.lg.jp/cess/index.html> [令和6年度アクセス件数 224,521件]

フェイスブックページアドレス <https://www.facebook.com/saitama.kankyokagaku>

YouTube公式チャンネルアドレス <https://www.youtube.com/channel/UCloUEno4mbrzZlOT2SzEV7A>

Instagramページアドレス <https://www.instagram.com/cess.saitamaken/>

3.1 ホームページのコンテンツ

(1) グローバルナビゲーション

トップページ上段に、以下の4つの大分類を設け、サイト構成をわかりやすく整理。

ア センターについて 総長あいさつ、組織図、沿革、全景（航空写真）、パンフレットなどを掲載。

イ 施設紹介 施設紹介、ご利用案内、展示館、生態園、環境情報プラザ、研修室などを掲載。

ウ 試験研究の取組 研究所中期取組方針、研究課題、研究評価の取組、国際貢献、研究員紹介などを掲載。

エ 環境学習・情報 イベントのお知らせ、彩の国環境大学、身近な環境観察局、出前講座などを掲載。

(2) お知らせ

特に注目してほしい情報を掲載。

(3) 新着情報

最新の更新情報を掲載。

(4) 環境学習・イベント情報

最新のイベント情報、校外学習など環境学習に関する情報を掲載。

(5) 研究所トピックス

ニュースレター、センター講演会など研究所に関する情報を掲載。

(6) お役立ちPickUp

イベント情報、「ココが知りたい！埼玉の環境」などの情報を掲載。

(7) リンク

公式SNS情報、埼玉県気候変動適応センター、刊行物、地図で見る埼玉の環境 Atlas Eco Saitamaなど。

3.2 ニュースレターの発行

センターが行っている試験研究の内容や様々な講座、イベントなどの情報を県民の方々に広く情報提供するためのニュースレター（A4版・5～6ページ）を令和6年度に4回発行した。なお、ニュースレターは、センターのホームページから閲覧及びダウンロードができる。

(1) 第63号（令和6年4月発行）

- ・研究・事業紹介「浄化槽汚泥処理への新技術活用を探る～低炭素化へ向けた未来予想図～」
「埼玉県環境科学国際センター講演会の開催」

- ・ココが知りたい埼玉の環境（54）「PRTR制度」って何ですか？」
- ・環境学習・イベント情報

(2) 第64号（令和6年7月発行）

- ・研究・事業紹介「植物が放つ揮発性有機化合物の実態に迫る～大気寿命の短い成分との闘い～」
- ・ココが知りたい埼玉の環境（55）「川や池がいつもと違う色に見えます！どんな原因が考えられますか？」
- ・環境学習・イベント情報

(3) 第65号（令和6年10月発行）

- ・研究・事業紹介「田んぼの生物多様性 田植え時期で大きく変化する水生動物の顔ぶれ！」
- ・ココが知りたい埼玉の環境（56）「熱中症対策に出てくる「暑さ指数」、どのようなもの？」
- ・環境学習・イベント情報

(4) 第66号(令和7年1月発行)

- ・研究・事業紹介「動き出したラベル台紙のリサイクル」
- ・ココが知りたい埼玉の環境(57) 「DDT、PCBは何の略ですか」
- ・センター講演会のお知らせ「環境科学国際センターの「センター講演会」、是非御参加ください」
- ・環境学習・イベント情報

3.3 センター講演会

当センターでは、広く県民に活動内容及び研究成果を紹介することにより、県民のセンターに対する理解と環境問題への関心を深めることを目的としている。令和7年2月5日に「学び、守り、育む～地域に根差した環境保全の未来～」をテーマとした令和6年度環境科学国際センター講演会を埼玉会館小ホールとオンラインによるハイブリット方式で開催した。

今回は、中京テレビ放送専務取締役の黒崎太郎氏による特別講演、続いてセンター研究員による研究発表を行った。また、各研究員が研究成果等をポスター展示し、説明を行った。センター講演会の参加者は全体で210名であった。

(1) 特別講演

山と海と森～テレビ局の取り組み……………中京テレビ放送 専務取締役 黒崎太郎
急速に進行する地球温暖化に対し、温暖化抑制に向けたカーボンニュートラルの動きが広がりを見せている中、テレビ局としての取り組みを紹介した。事例として「日本全国での藻場の再生(造成)」や「GO GO GREEN プロジェクト(森の保全活動)」など、カーボンニュートラル社会の実現に貢献するべく番組と事業を組み合わせたプロジェクトを実施している。

(2) センターの研究成果発表

オオカミを通して考える環境と社会……………自然環境担当 専門研究員 角田裕志
日本におけるオオカミの絶滅による一部生態的機能が失われた結果、増加したニホンジカやアンバランスな状態にある生態系と我々はどうのように向き合っていくべきか、豊かな自然を取り戻すために一人一人ができることは何かを考えるきっかけを提供した。
水生生物カードゲームで深める河川体験学習……………水環境担当 主任研究員 田中仁志
水環境担当が実施している環境学習及びアウトリーチ活動について報告した。また、河川の水質指標生物から河川環境保全を学べるよう開発した環境学習教材(水生生物カードゲーム)について紹介した。

(3) 研究成果等のポスター発表

温暖化対策担当、大気環境担当、自然環境担当、資源循環・廃棄物担当、化学物質・環境放射能担当、水環境担当、土壌・地下水・地盤担当の研究員及び彩の国環境大学修了生が、研究成果をポスター展示し、説明した。



特別講演



ポスター展示

3.4 環境情報の提供

(1) 気候変動適応センター

埼玉県では、平成30年12月の気候変動適応法施行にあわせ、埼玉県環境科学国際センターを地域気候変動適応センター(埼玉県気候変動適応センター)に位置付けた。埼玉県気候変動適応センターでは、県内の気象情報や影響情報、適応策に関連する情報を収集・整理するとともに、新たに埼玉県気候変動適応センターのホームページ(SAI-PLAT)を立ち上げ、インターネットを通じた情報提供を行っている。さらに、気候変動適応サイエンスカフェなど様々な手段を通じた情報発信を行っている。

気候変動適応サイエンスカフェ

期 日	テーマ	講 師 名	開催場所	参加者
2024. 7. 9	「気候変動により高まる熱中症リスクとその対策」	<スピーカー> 国立環境研究所 気候変動影響観測研究室長 岡 和孝 <ファシリテーター> 埼玉県環境科学国際センター 長谷川就一	オンライン	85 名
2024. 9.27	「安全は正しい気象知識から」	<スピーカー> 気象キャスター・気象予報士 藤森涼子 <ファシリテーター> 埼玉県環境科学国際センター 長谷川就一	オンライン	106 名
2024.11.29	「東日本台風から 5 年 -また日本のどこかに現れてくるかもしれない-」	<スピーカー> 気象庁熊谷地方気象台 加茂直幸 <ファシリテーター> 埼玉県環境科学国際センター 大和広明	オンライン	74 名
2025. 3.14	「気候変動対策としての森林保全に求められるもの」 (生物多様性センターと共同開催)	<スピーカー> 早稲田大学人間科学部 教授 平塚基志 <ファシリテーター> 埼玉県環境科学国際センター 長谷川就一	オンライン	77 名

(4 講座、計 342 名)

(2) 生物多様性センター

埼玉県では、「埼玉県生物多様性保全戦略」を推進し、生物多様性の保全を進める関係者の連携・情報共有の拠点として、令和4年4月1日に、「埼玉県生物多様性センター」を環境科学国際センターに設置した。ここでは、地域保全活動の支援をはじめ、生物多様性保全に関する情報収集・管理・発信、調査研究、教育・普及啓発などを行っている。埼玉県生物多様性センターのホームページでそれらの情報を提供しているほか、サイエンスカフェなどによる普及啓発活動も行っている。

イベント

期 日	イベント名及びテーマ	演題及び講師	開催場所	参加者
2024. 6.20	いきものサイエンスカフェ ¹⁾ 「ツキノワグマはなぜ出沒したのか!」	<スピーカー> 東京農工大学大学院 教授 小池伸介	オンライン	70 名
2024. 6.22	県の蝶ミドリシジミを見る集い2024 ²⁾	秋ヶ瀬公園(ピクニックの森周辺)におけるミドリシジミの観察 <講師> 埼玉昆虫談話会会員	さいたま市	79 名
2024. 7.27 -28	目指せ! いきもの博士〜生物多様性について考えよう	田んぼの生きもの観察、外来生物(クビアカツヤカミキリ)について学ぶ 生物多様性について研究している高校生の研究発表	熊谷市	88 名

期 日	イベント名及びテーマ	演題及び講師	開催場所	参加者
2024. 9. 3	第22回環境問題の現況と将来を展望するセミナー ³⁾	<基調講演> 「カーボンニュートラル&ネイチャーポジティブ～脱炭素と自然再興の同時達成を目指して～」 国立環境研究所 社会システム領域 主任研究員 土屋一彬 <取組報告> ① 埼玉県気候変動適応センターの取組 ② 埼玉県生物多様性保全戦略（2024年度-2031年度）の概要 ③ 排出量取引制度におけるGHG排出量の検証の取組	さいたま市及びオンライン	155 名
2024.11.8	いきものサイエンスカフェ ¹⁾ 「アライグマ防除の基本のき」	「アライグマ防除の基本のき」 <スピーカー> 農業・食品産業技術総合研究機構 畜産研究部門 主任研究員 小坂井千夏	さいたま市及びオンライン	81 名
2024.12.27	高校生生物多様性フォーラム	<基調講演> 「高校生の活動から生物多様性の未来を考えよう」 埼玉大学教育学部 准教授 荒木祐二 <ポスター発表> 高校生による活動の紹介・報告	環境科学国際センター	63 名
2025. 2.15	第11回いきものフォーラム ¹⁾ 「ネイチャーポジティブ企業の役割」	<基調講演> 「持続可能な社会への転換 企業とネイチャーポジティブ」 (公財)日本自然保護協会 原田和樹 <事例発表> 「工場内で希少種保全レフュジアビोटープ10年のあゆみ」 テクセンドフォトマスク(株) 鈴木俊宏 「企業も生物も持続する自然保護事業」 太平電機(株)ECOひいきプロジェクト 代表取締役社長 樋口公平 「KDDIのネイチャーポジティブへの取り組み～私たちの『つなぐチカラ』で出来ること～」 KDDI(株)北関東総支社 管理部長 安本高望	オンライン	71 名
2025. 3.14	いきものサイエンスカフェ (気候変動適応センターと共同開催)	「気候変動対策としての森林保全に求められるもの」(再掲)	環境科学国際センター	77 名

共同開催団体：(1)(特非)いろいろ生きものネット埼玉、(2)埼玉昆虫談話会、(3)(特非)環境ネットワーク埼玉
(8 イベント、計 684 名 (気候変動適応センター共同開催分を含む))



埼玉県生物多様性センターホームページ (<https://saitama-biodiversity-center-cessgis.hub.arcgis.com/>)

(3) モニタリングデータの提供 (CO₂)

環境科学国際センターは、さいたま市(1991～2000年度)、東秩父村(1992年度～)及び加須市(2000年度～)において、温室効果ガスである大気中のCO₂の濃度を観測してきた。観測に当たっては、世界気象機関標準ガスを基準としており、観測データについては、世界気象機関(WMO)の温室効果ガス世界資料センター(WDCGG)へ提供することにより、世界各地に供給した。平成21年10月からは、当センターの観測結果(速報値)をセンターホームページに掲載(自動更新)し、公開してきた。なお、CO₂の濃度観測は、2025年1月9日をもって終了した。

(4) 環境情報の海外への発信

ホームページに英語版、中国語版のパンフレットを掲載するとともに、英語版ホームページにより研究成果や研究員紹介などを掲載し、海外に向けた情報発信を行った。

(5) 共同研究サポート等

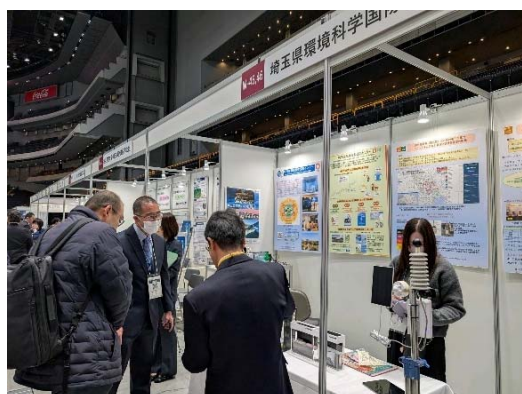
民間事業者や地域との連携を強化するため、次のとおり試験研究成果に関する情報を積極的に発信するとともに、民間事業者のニーズ等に関する情報を収集した。

- ・分析イノベーション交流会：令和6年12月23日～24日に東京たま未来メッセで開催された分析イノベーション交流会に民間企業との共同研究の成果を出展した。

- ・オンラインSPE-LCシステムを利用した有機フッ素化合物(PFASs)分析用前処理装置……………
 ……化学物質・環境放射能担当 専門研究員 竹峰秀祐 土壌・地下水・地盤担当 主任 高沢麻里
- ・彩の国ビジネスアリーナ2025：令和7年1月22日～23日にさいたまスーパーアリーナで開催された彩の国ビジネスアリーナ2025に標準ブース2小間で出展し、環境科学国際センターの概要や研究シーズを紹介した。出展内容は次のとおり。

- 熱中症対策(適応策)のための暑さ指数のリアルタイム公表と暑さ指数計測装置の開発……………
 ……温暖化対策担当 主任 大和広明
- リチウムイオン電池等の回収実証事業～放電試験～……………資源循環・破棄物担当 担当部長 川崎幹生
- 埼玉県における地中熱と太陽熱の複合利用……………土壌・地下水・地盤担当 主任研究員 濱元栄起
- VR ぐるっとさいたま360……………総務・学習・情報担当 主任 岩崎伸広
- 埼玉県気候変動適応センター……………温暖化対策担当
- 埼玉県生物多様性センター……………生物多様性保全担当
- ・民間企業等との共同研究：IoT暑さ指数計の開発、上空大気や粒子の磁性測定、PFASsやダイオキシンの分析手法、地中熱システム導入のための調査技術に関する民間企業との共同研究を6件実施するとともに、新たに民間企業と熱中症対策情報の発信、石綿の判別技術、低コスト型土壌対策技術、PFASs対応試薬保存瓶開発に関する共同研究契約を4件結んだ。
- ・ぶぎんレポート(ぶぎん地域経済研究所発行)：ぶぎんレポート連載の「地域を守る環境研究の最前線」に、研究員等が執筆した3つの記事が掲載された(令和7年1月、2月、3月各号)。
 見て、聞いて、触れて、感じて、行動する……………総務・学習・情報担当 担当課長 内野絵美
- 災害による断水に備えるー井戸と地域の絆がもたらす力……………土壌・地下水・地盤担当 主任研究員 柿本貴志
- 埼玉県の河川中マイクロプラスチックの実態……………水環境担当 担当部長 田中仁志

- ・埼玉県エコサポートガイドブック：事業者向けの県の環境支援策をまとめた「埼玉県エコサポートガイドブック」に、環境保全に関する共同研究等の支援事業として研究シーズ集第3版を紹介した。
- ・埼玉県産業技術総合センターが行っている民間企業との生分解性プラスチックの開発について、試作サンプルの紫外線、オゾン耐候性及び土壌中の生分解性を試験し、製品化に向けた支援を行った。



ビジネスアリーナ2025への出展



分析イノベーション交流会への出展

3.5 マスコミ報道

センターの試験研究、環境学習等に関して記者発表を行ったほか、取材等を受けた結果、以下のとおりマスコミによる報道があった。

(1) 新聞報道、広報誌掲載

(23回)

掲載日	掲載紙(誌)	タイトル	内容
2024. 4.11	読売新聞	不用品 意外な転身アップサイクル広がる	捨てられるはずの不用品から、新たな商品を生み出すアップサイクルの取り組みが県内でも広がっている。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、飛沫の飛散を防ぐためオフィスや学校などに置かれた透明のアクリル板が、色とりどりのステンドグラス風の作品として、県環境科学国際センター展示館「彩かんかん」の2階に展示されている。
2024. 4.12	埼玉新聞	カミキリ寄生 サクラ危機 埼玉など13都府県 枯死回避へ模索 県北など22市町村で被害	県は「クビアカツヤカミキリ発見大調査」を行い、2022年度までに22市町村で発見、被害が確認された。県環境科学国際センターの担当者は、「放置すると桜の名所もなくなるかもしれない。幼虫の出すフラスや成虫を見つけたら報告してほしい」と話した。
2024. 4.20	毎日新聞	国の天然記念物「シラコバト」 野生で絶滅危機、妙手なく 埼玉	シラコバトは国の天然記念物で「県民の鳥」に指定されているが、その姿を近年、野生で見た人はほとんどいないだろう。県環境科学国際センターによると、県内5施設で約300羽が飼育され、「繁殖自体はうまくいっている」という。ただ、放鳥が野生の個体数を増やすことにつながるかなどについて十分な検討が必要で、放鳥を考える段階には至っていないのが現状である。
2024. 4.27	埼玉新聞	県内観光施設のGW企画 環境科学国際センター	県内観光施設の1つとして県環境科学国際センターのGW特別企画の実施を報じる内容。
2024. 5. 5	読売新聞	外来カミキリ 食害最悪 昨年度832か所 桶川など13市町村で初	特定外来生物の昆虫「クビアカツヤカミキリ」による県内のサクラの木などの食害被害が、前年度比39%増の832か所に拡大した。調査結果をまとめた県環境科学国際センターによると、記録が残る2018年以降で最悪となった。

掲載日	掲載紙(誌)	タイトル	内 容
2024. 5.11	産経新聞	市民参加で4百種超の生物図鑑作成 国内初の定着確認「タケオオツクツク」も 埼玉・川口	川口市は、市内に生息する412種の生き物の写真を掲載した「川口いきもの図鑑」を初めて作成した。埼玉県生物多様性センターによると、絶滅のおそれのある生物に関する保全状況などを記載した埼玉県レッドデータブックの2018年度版で、県内の全生物1万2375種のなかで、昆虫は1万1006種。担当者は「埼玉県は比較的昆虫の種類が多いのが特徴」と指摘。
2024. 5.12	朝日新聞	外来カミキリ 昨年度被害832カ所、過去最悪 13市町で初確認	サクラなどの樹木を食い荒らす特定外来生物の「クビアカツヤカミキリ」の食害被害が埼玉県内でも広がっている。県環境科学国際センターによると、昨年度は36市町の832カ所で被害が確認され、記録が残る2018年度以降で最も多かった。日本には輸入品の梱包材などに混じって入ってきたとみられる。
2024. 5.14	産経新聞	クビアカツヤカミキリの埼玉県内の5年度被害は36市町に拡大 平成30年度以降最悪	県環境科学国際センターは、サクラやウメなどの樹木を枯死させる特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」による埼玉県内の被害状況をまとめた。それによると、令和5年度に被害が確認された自治体の数は36市町に拡大した。記録がある平成30年度以降で過去最多となり、同センターなどが警戒を強めている。
2024. 5.25	埼玉新聞	樹木食害 歯止めかからず 特定外来カミキリ 県内被害832カ所	県環境科学国際センターは県民から情報提供を募る「クビアカツヤカミキリ発見大調査」の2023年度の結果を公表。人気の花見スポットがある川越市や北本市など13市町で新たに被害が報告され、県内の被害箇所数は22年度の約1.4倍の832カ所に増加した。
2024. 6.15	朝日新聞	暑さ指数の測定装置、独自に開発 熱中症対策にける県職員の熱意	埼玉県が熱中症の危険度を示す「暑さ指数」(WBGT)を独自で測る取り組みを続けている。2022年に県内の20地点で始め、現在は県内28地点まで増やした。月内にはさらに2地点を増やす予定。このシステムを作ったのは、県環境科学国際センターで温暖化対策を担当する大和広明研究員である。
2024. 6.29	朝日新聞(夕刊)	熱中症減らしたい 県職員の熱い思い	(6.15朝日新聞記事再掲)
2024. 7.11	毎日新聞	「樹木の敵」被害急増 特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」	特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」による被害が県内で広がっている。県環境科学国際センターは、県民に調査を依頼し、状況の把握を続けている。24年度の調査も始まっており、成虫が発生し、被害も多くなる6月から8月末までを集中調査期間としている。
2024. 7.17	埼玉新聞	金のオタマジャクシ 飼育 ヌマガエルのアルビノか	三郷市小学1年生の土渕連央さんは同市中央の自宅近くの田んぼで見つけた金のオタマジャクシを家族で飼育している。県環境科学国際センター茂木守研究推進室長に、撮影した金のオタマジャクシの確認を依頼すると、「ヌマガエルのアルビノ個体だと思われる」と返答があった。
2024. 8.31	東奥日報	下北で深まるジオの絆 全国大会開幕 関係者が交流	「ジオパークでつながる 海 大地 未来」をスローガンにした「日本ジオパーク全国大会下北大会」が30日開幕した。パネルディスカッションで、県環境科学国際センター植松光夫総長は「人間の活動が海洋の生産性に変化をもたらしている。科学的調査に基づいて管理することが大切」と述べた。

掲載日	掲載紙(誌)	タイトル	内容
2024. 9. 3	埼玉新聞	最後の“浦和工高生”が製作 デジタルコンテンツ「環境パスポート」刷新	環境科学国際センターで8月、環境に関するクイズに答えて地球を守るためにできる行動を宣言し、自身の写真をプリントする「環境パスポート」がリニューアルされた。手がけたのは、浦和工業高校情報技術学科の2年生4人。同校は大宮工業高校との合併が決まっている。
2024. 9. 9	東京新聞	上空1000mの謎に挑戦 光化学スモッグ 県、ドローンで初調査	埼玉県は、「光化学スモッグ注意報」の発令日数が全国ワーストクラスである。大気汚染が深刻な社会問題になっていた昭和の頃と比べ対策は進んでいるが、抜本的な改善には至っていない。県環境科学国際センターは近年、ドローンを使い、上空の汚染物質の分布状況などを測定している。ドローンを使うのは国内初。
2024. 9.18	東京新聞（夕刊）	大気汚染上空1000mの謎を追う	（9.9東京新聞記事再掲）
2024.11. 7	読売新聞	上空1000メートル大気ドローン調査	県環境科学国際センターは今夏、上空1000メートルの大気調査を国内の研究機関で初めて実施した。従来は地表しか調査できなかったが、高性能のドローンを使うことで実現させた。上空を含めた広範囲の大気データを収集し、効果的な対策を探る。
2024.12.13	朝日新聞	光化学スモッグの謎 上空1千メートルで探る 県環境科学国際センター 国内初調査	光化学スモッグが発生する仕組みを解明しようと、県環境科学国際センターが、ドローンを使って上空1千メートルの大気調査に乗り出した。これまでは地表付近の調査が中心で、上空1千メートルの調査は国内で初めてという。大気中の化学物質などのデータを集め、対策に役立てる。
2024.12.28	朝日新聞（栃木県版）	光化学スモッグ調査 栃木市上空1千メートルへ ドローン飛ばしデータ集め	県環境科学国際センターが、ドローンを使って上空1千メートルの大気調査に乗り出した。これまでは地表付近の調査が中心で、上空1千メートルの調査は国内で初めて。埼玉県内と環境に近い渡良瀬遊水地でデータを集め、対策に役立てる。
2025. 1.21	埼玉新聞	「野生復帰は金メダル」 埼玉・金子名誉教授 ムジナモの軌跡語る 羽生	食虫植物のムジナモが、県のレッドリストの改訂で「野生絶滅」から「絶滅危惧IA類」に決まった。野生復帰を祝して、羽生市でムジナモ講演会があり、県環境科学国際センターの安野研究員が希少生物の現状を話した。
2025. 2.17	毎日新聞	「奇跡の魚」ムサシトミヨの危機	ムサシトミヨは埼玉県、熊谷市のシンボルでもある。源流部の下流で養魚池のために地下水のポンプアップを行っていた養鱒場が廃業の準備をしている。県環境科学国際の酒井センター長は「これまでも何度となく危機があり、そのたびに解決してきた。知恵を出して乗り越えていくしかない。」と語る。
2025. 2.20	毎日新聞（夕刊）	「奇跡の魚」瀬戸際養鱒場廃業 命綱の地下水流入半減	（2.17毎日新聞記事再掲）

（２）テレビ放映、ラジオ放送

（8回）

放送日	局 名	番組名（タイトル）	内 容
2024. 4.23	テレビ埼玉	知事記者会見	ゴールデンウィークに向けた観光情報

放送日	局 名	番組名 (タイトル)	内 容
2024. 6.29	日本テレビ	ウェークアップぶらす	暑さ指数計の紹介
2024. 6.29	テレビ朝日	サンドウィッチマン&芦田愛菜の博士ちゃん	幻のニホンオオカミSP
2024. 8.22	エフエムしみず	マリンパルほっとライン	富士山頂大気中における氷晶核及びバイオエアロゾルの計測
2024. 8.29	BS朝日	つながる絵本～for SDGs～	データ活用で熱中症予防
2024.10. 6	FMわたらせ	グッ★モニ	「渡良瀬遊水地まつり in KAZO」野鳥観察ツアー及びクビアカツヤカミキリ関連の展示の生中継
2024.11.27	テレビ埼玉	情報番組マチコミコーナー「おでかけしまSHOW」	彩かんかんの紹介
2025. 1.19	TBSラジオ	安住紳一郎の日曜天国	「みんなでやれば怖くない！ガマの穂の種子を数える できるところまでやってみよう！」の生中継

(3) ミニコミ誌等

(6 回)

掲載日	掲載紙(誌)	タ イ ト ル	内 容
2024. 4.22	羽生・加須・行田生活情報誌『とねじん』	2024 ゴールデンウィーク特別企画	2024 ゴールデンウィーク特別企画及び県環境科学国際センター展示館の基本情報等の紹介。
2024. 6. 1	広報かぞ (6月号)	特集 人と自然とふれあいの中で	地球温暖化に対する県環境科学国際センター嶋田研究員へのインタビュー。私たち一人ひとりが環境問題について知り、自分事として捉え、これからどういった選択をしていくのかを考え続けることが大切ではないでしょうか。
2024. 7.15	YAHOO! JAPAN ニュース	【加須市】夏休みは「埼玉県環境科学国際センター」へ！	7月20日から8月18日までの期間、『2024夏休み特別企画「探そう”環境×科学”のひみつ～CESSは君の自由研究を応援します！～」』を開催することの紹介。
2024. 8. 9	県立総合教育センター発行『埼玉教育』	「見て、聞いて、触れて、感じて、行動する」埼玉県環境科学国際センターで遊びながら環境を学ぼう！	県環境科学国際センターの基本情報・展示館・生態園・季節ごとの特別企画・環境学習への取組みの紹介
2024. 8.26	羽生・加須・行田生活情報誌『とねじん』	2024 シルバーウィーク特別企画	2024 シルバーウィーク特別企画及び県環境科学国際センター展示館の基本情報等の紹介。
2024.10.21	羽生・加須・行田生活情報誌『とねじん』	2024 県民の日特別企画	2024 県民の日特別企画及び県環境科学国際センター展示館の基本情報等の紹介。